

オリフルア剤 ナシヒメコン	取扱メーカー： 協友アグリ、サンケイ＊、信越化学 原体メーカー： 信越化学
成分： (Z)－8－ドデセニル＝アセタート……………87.5%	性状： 淡黄色澄明油状液体 (50本入りアルミ線封入) 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級III

【品目特性】 ……………

●性フェロモンの交信かく乱作用によってナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイの交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることで、次世代の密度低下を目的とする。

●殺虫剤とは作用性が全く異なるので、従来の殺虫剤に対して感受性の低下したナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイにも有効である。

●大面積で連年使用した場合、ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイを対象とした殺虫剤の散布回数の削減が期待できる。

●天敵に対する影響は少なく、天敵利用場面で有効である。

●人畜毒性は低いことから作業者に対しても安全である。

●有効成分は作物への残留の心配がなく、また、土壤中の微生物などにより容易に分解されるため、環境にやさしい防除剤である。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】 ……………

●越冬世代成虫発生初期から収穫期まで連続的に、できるだけ広い範囲で使用する。

●果樹の細枝などに巻き付け、対象圃場に均一になるように設置する。立地条件、風向、傾斜など

によっては使用量の範囲内で、周辺部に多めに設置する。

●梨のナシヒメシンクイ対象に使用する場合、晩生種には残効が及ばない可能性がある。このような場合には、追加処理として8月中旬に、半量（50本/10a）を処理する。

●初めて使用する場合には、県の指導機関と相談して、指導を受ける。

【薬効・薬害等の注意】 ……………

●飛来した既交尾雌には効果がない。

●害虫の発生密度が高い場合には効果が不安定になるので、成虫の発生前～発生初期から使用する。

●大規模面積で使用する場合、なるべく短期間に一斉に処理することが好ましい。

●小面積での使用は効果が不安定になる場合が多い。処理区域外からの既交尾雌の侵入が予想される場合には、適当な殺虫剤を併用する。

●急傾斜地、風の強い地帯など、本剤の気中濃度を維持するのが困難な地域では設置を見合わせる。

●外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると有効成分が揮散するので、必ず使用直前に開封し、なるべく使いきる。

●共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【適用と使用法】 ……………

作物名	使用目的	適用害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	使用方法
果 樹 類	交尾阻害	ナシヒメシンクイ	50～100 本 (23g/100 本製剤)	成虫発生初期 から終期	ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。
す も も		スモモヒメシンクイ			